

(2) ブナクラス域の自然植生

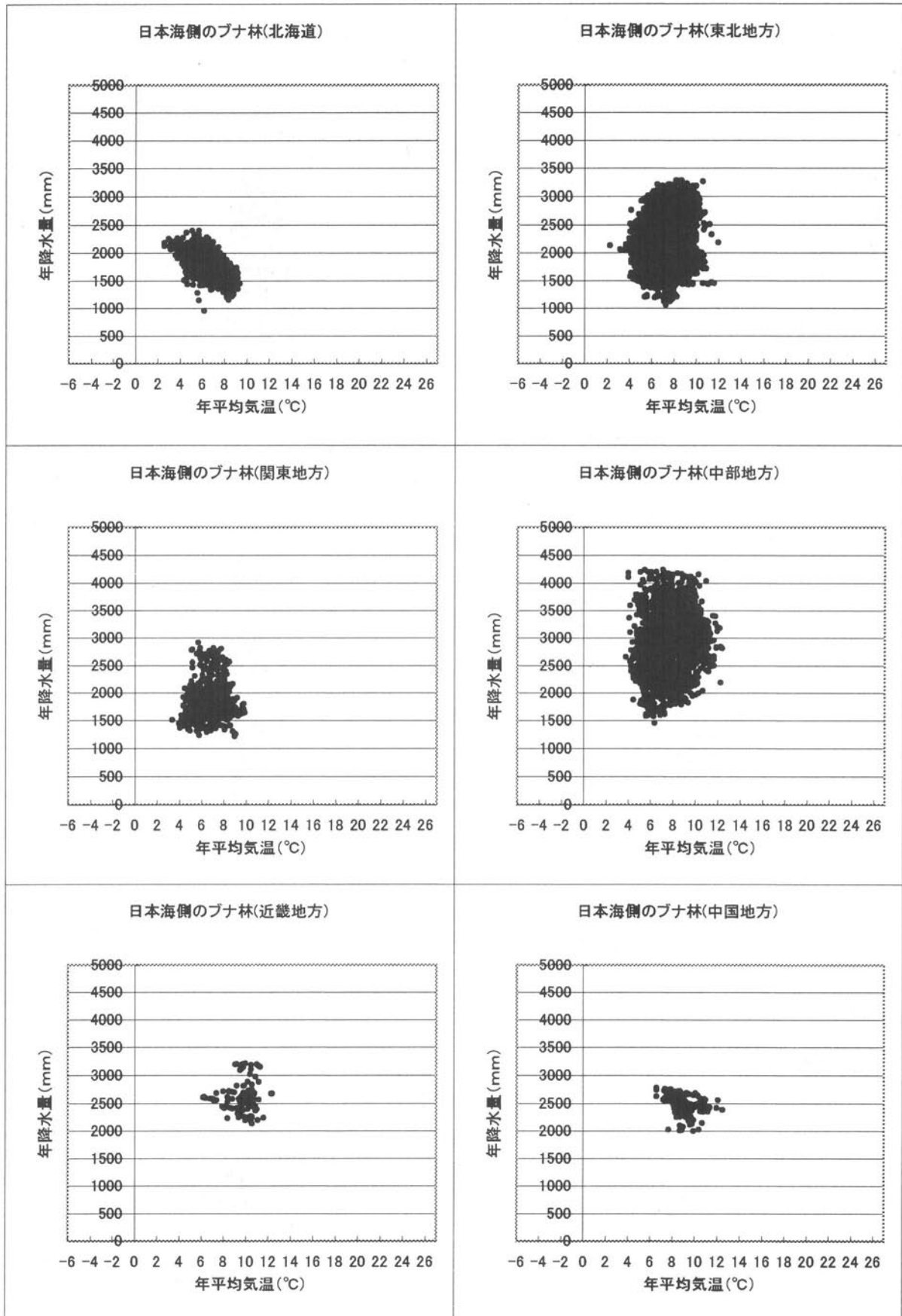
ブナクラス域の自然植生のうち、日本海側のブナ林、太平洋側のブナ林の気象要因とのかかわりからみた出現メッシュの状況を図Ⅱ.5.3～Ⅱ.5.20に示す。

ブナ林(自然林)の分布は、北海道、中国地方では日本海側のブナ林のみみられており、四国地方、九州地方では太平洋側のブナ林のみみられている。東北地方、関東地方、中部地方、近畿地方の4地方では、日本海側ブナ林と太平洋側ブナ林の両植生がみられている(表Ⅱ.5.4)。

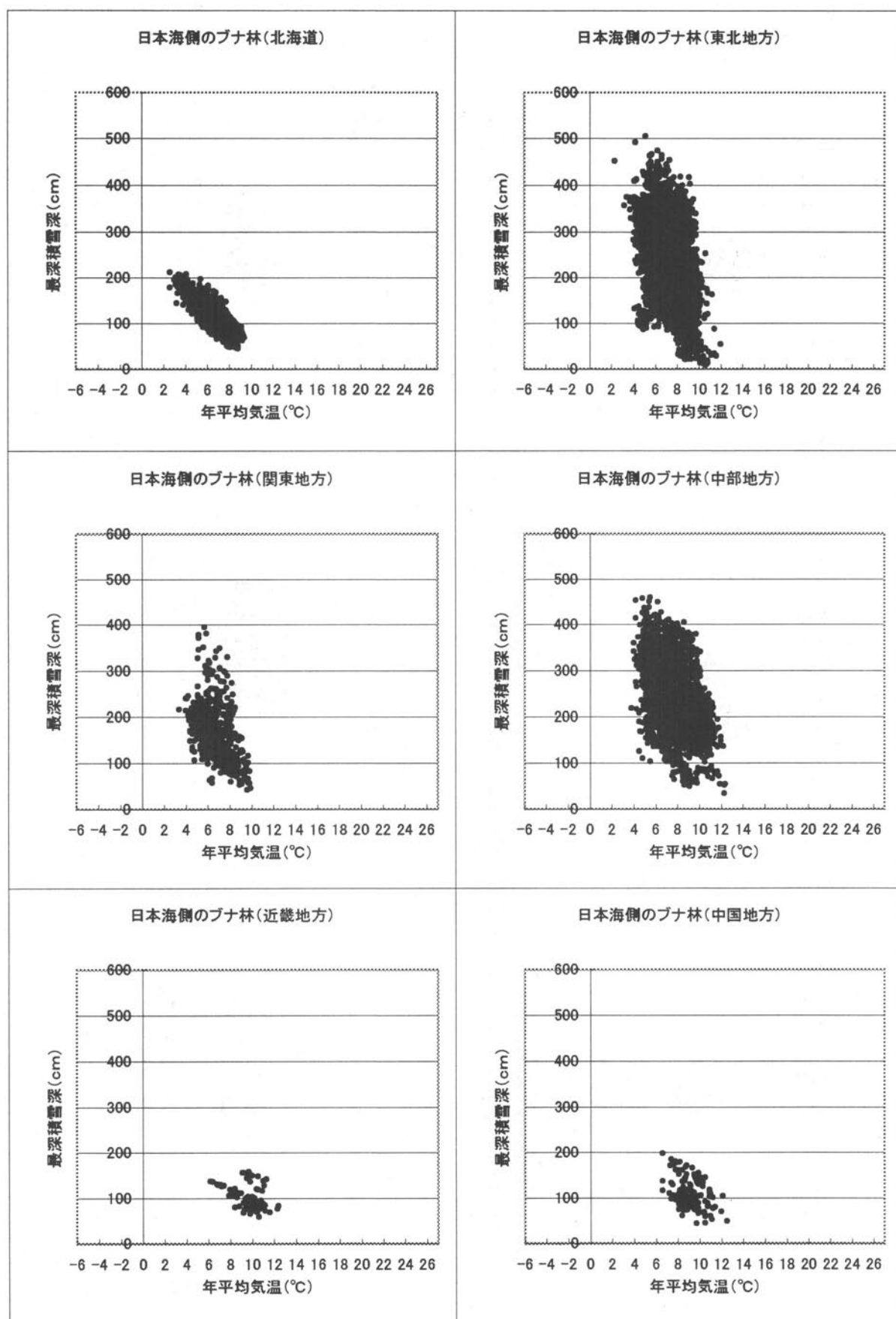
日本海側のブナ林について、1,000メッシュ以上出現している、北海道、東北地方、中部地方を比較すると、年降水量、最深積雪深、標高において分布域に差異がみられる。北海道では東北地方、中部地方と大きく異なり、年降水量が少なく最深積雪深が小さく、また低標高域に偏在していることがわかる。東北地方は、中部地方と比較して類似しているが、より降水量が少なく低標高域に偏在しており、特に標高500m以下の地域にも多く分布していることが特徴的である。関東地方、近畿地方、中国地方は、上記3地方と比較して出現メッシュ数も少なく、気象要因から見た分布域も小さくなっている。

太平洋側のブナ林について、東北地方を除き、関東地方、中部地方、近畿地方、四国地方、九州地方の各地方で、ほぼ200メッシュ以上出現している。東北地方を除く各地方について比較すると、年降水量、標高において分布域の差異がみられている。年降水量からみると、およそ2,500mmを境として、関東地方、中部地方は2,500mm以下の地域に偏在しており、近畿地方、四国地方、九州地方は2,500mm以上の地域に偏在している。また、標高からみると、四国地方ではほとんどが標高約1,000m以上の地域に偏在しているが、その他の地方では1,000m以下の地域においても分布していることがわかる。東北地方における太平洋側のブナ林は、他の地方と比較して出現メッシュ数(74メッシュ)も少なく、気象要因からみた分布域も小さくなっている。

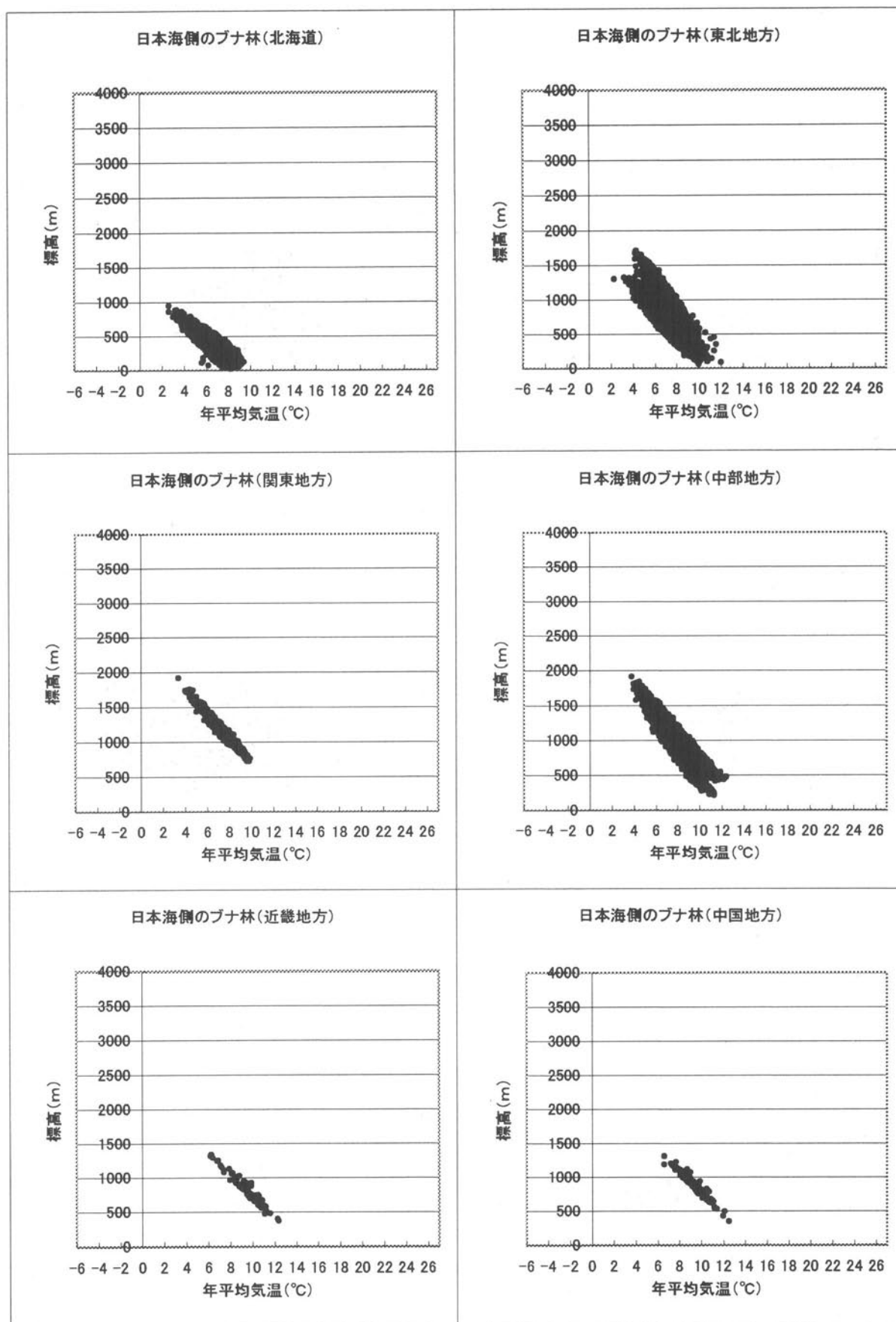
日本海側のブナ林と太平洋側のブナ林について、どちらの植生も出現する、東北地方、関東地方、中部地方、近畿地方における出現状況を比較すると、年平均気温、最深積雪深からみると、太平洋側ブナ林はより最深積雪深が小さい地域に分布しており、気温より積雪による制約が両植生の性格を特徴づけているとみられる。一方、標高についてみると、地方により両植生のすみわけ状況が異なっており、東北地方ではどちらの植生とも標高500m以下の地域でも分布がみられている。関東地方では両植生の分布状況は類似している。中部地方では、標高約1,000m以下の地域では太平洋側ブナ林の分布が少なく、近畿地方では、約1,000mを境として、高海拔域では太平洋側ブナ林が分布し低海拔域では日本海側ブナ林が分布していることがわかる。



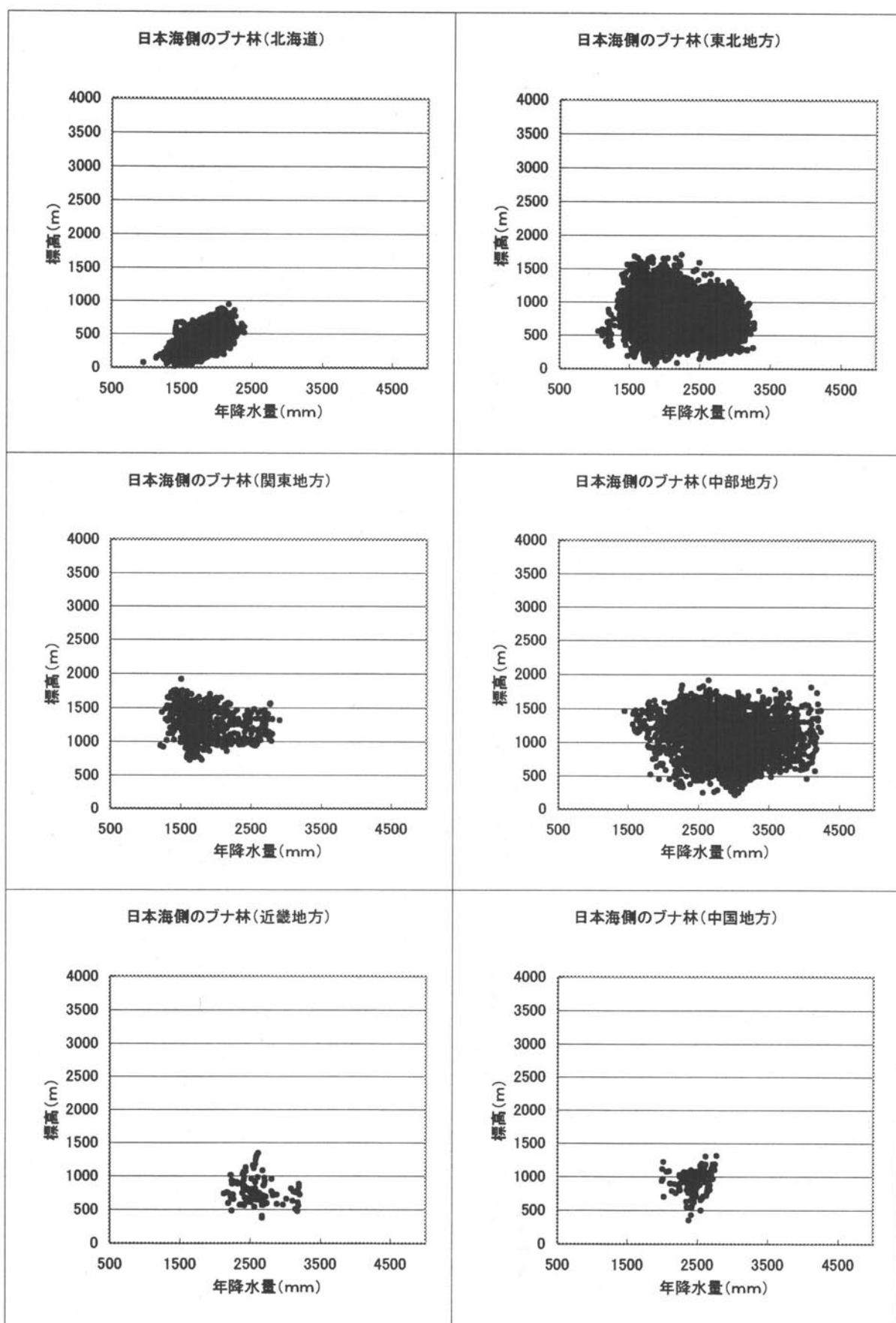
図Ⅱ.5.13 日本海側ブナ林（自然植生）と環境要因(気温、降水量)との関係



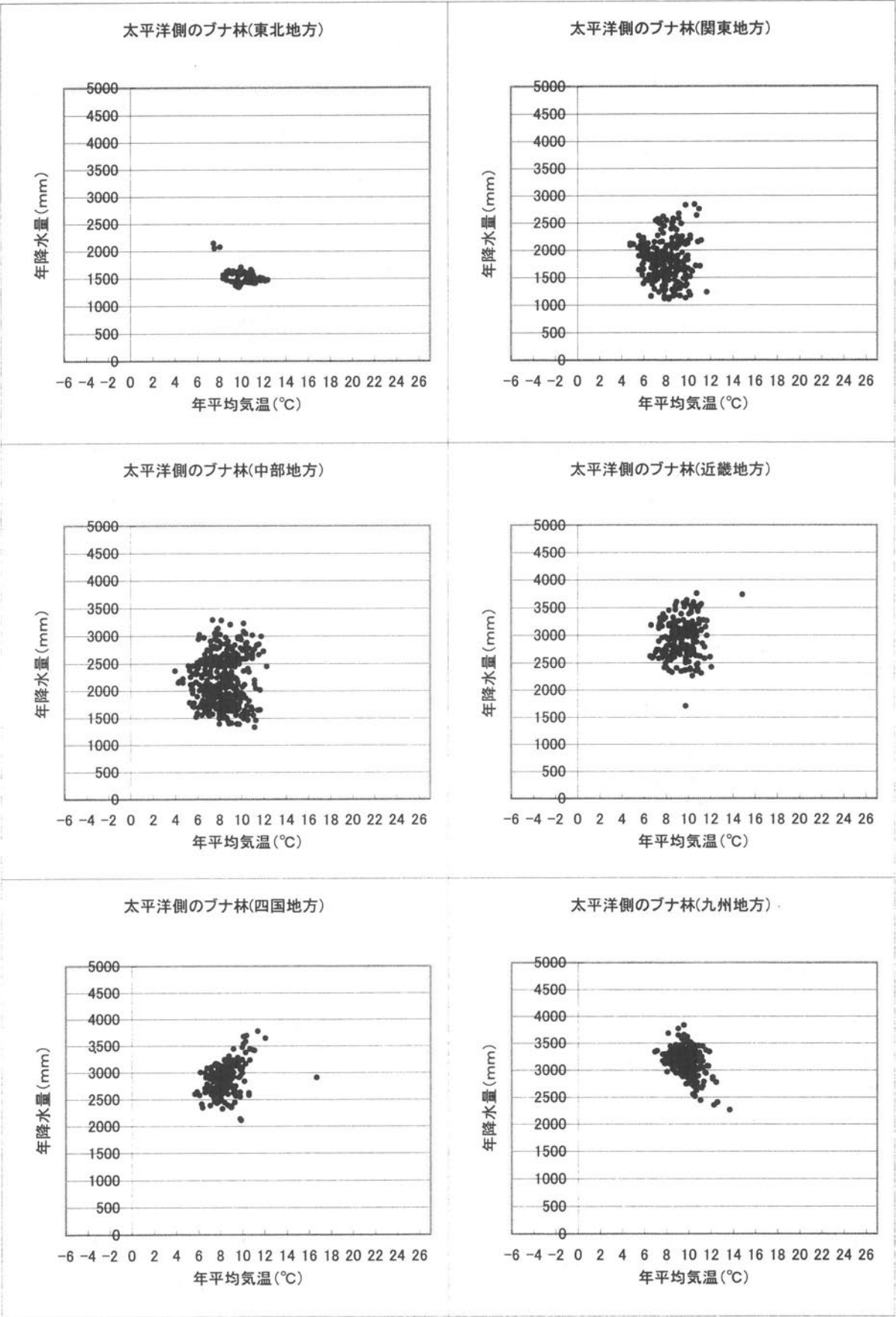
図Ⅱ.5.14 日本海側ブナ林（自然植生）と環境要因(気温、最深積雪深)との関



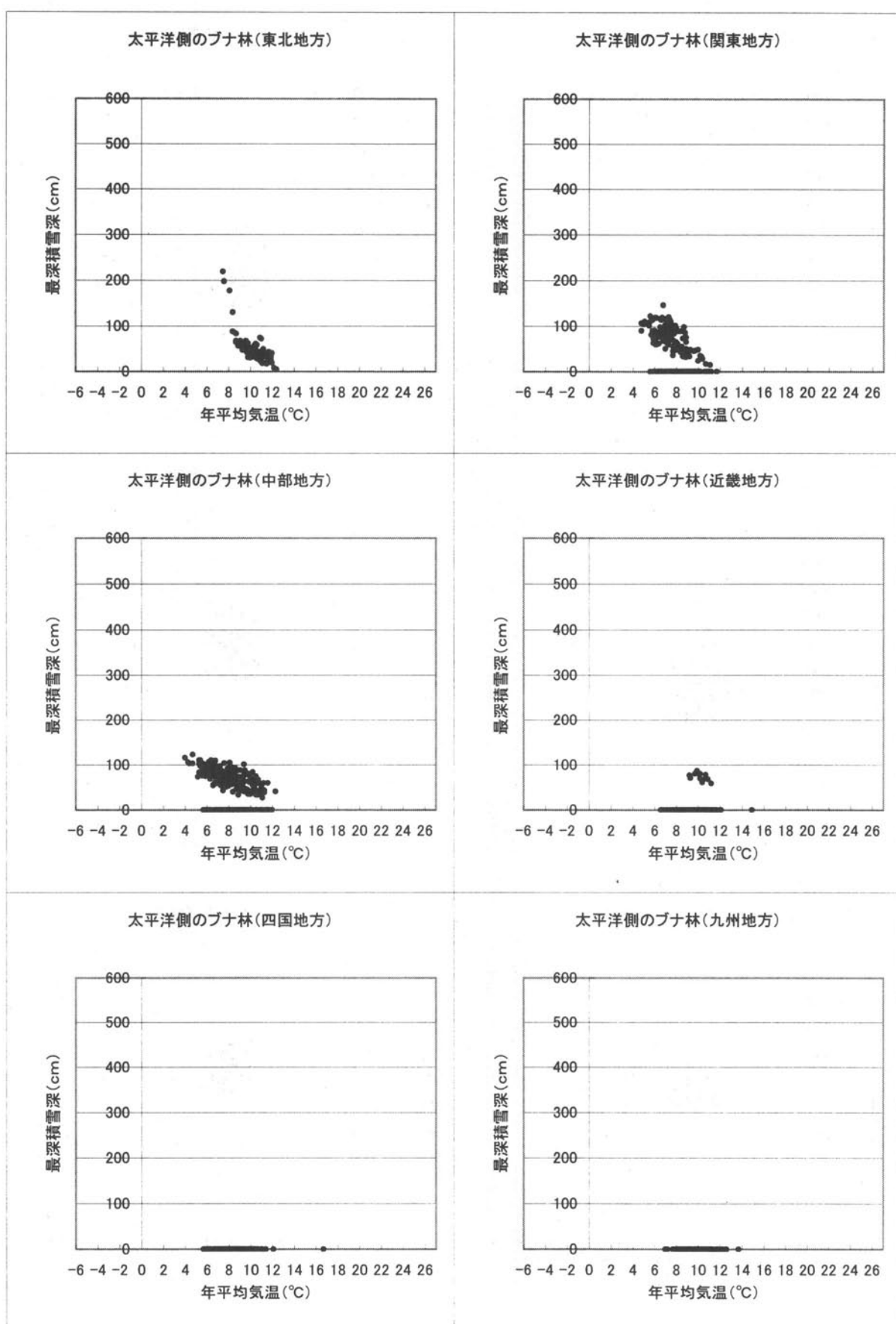
図Ⅱ.5.15 日本海側ブナ林（自然植生）と環境要因（気温、標高）との関係



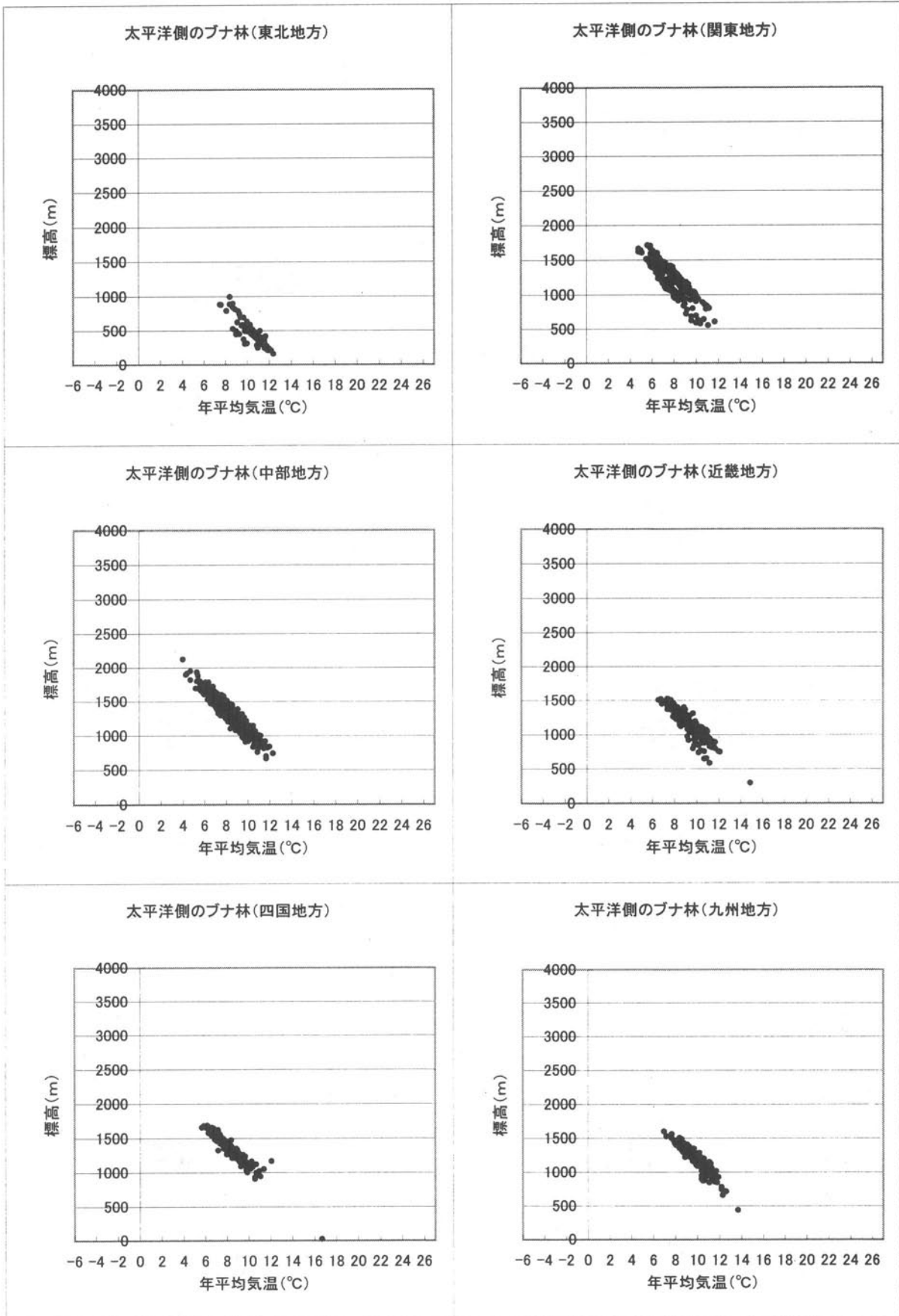
図Ⅱ.5.16 日本海側クナラ林（自然植生）と環境要因（降水量、標高）との関係



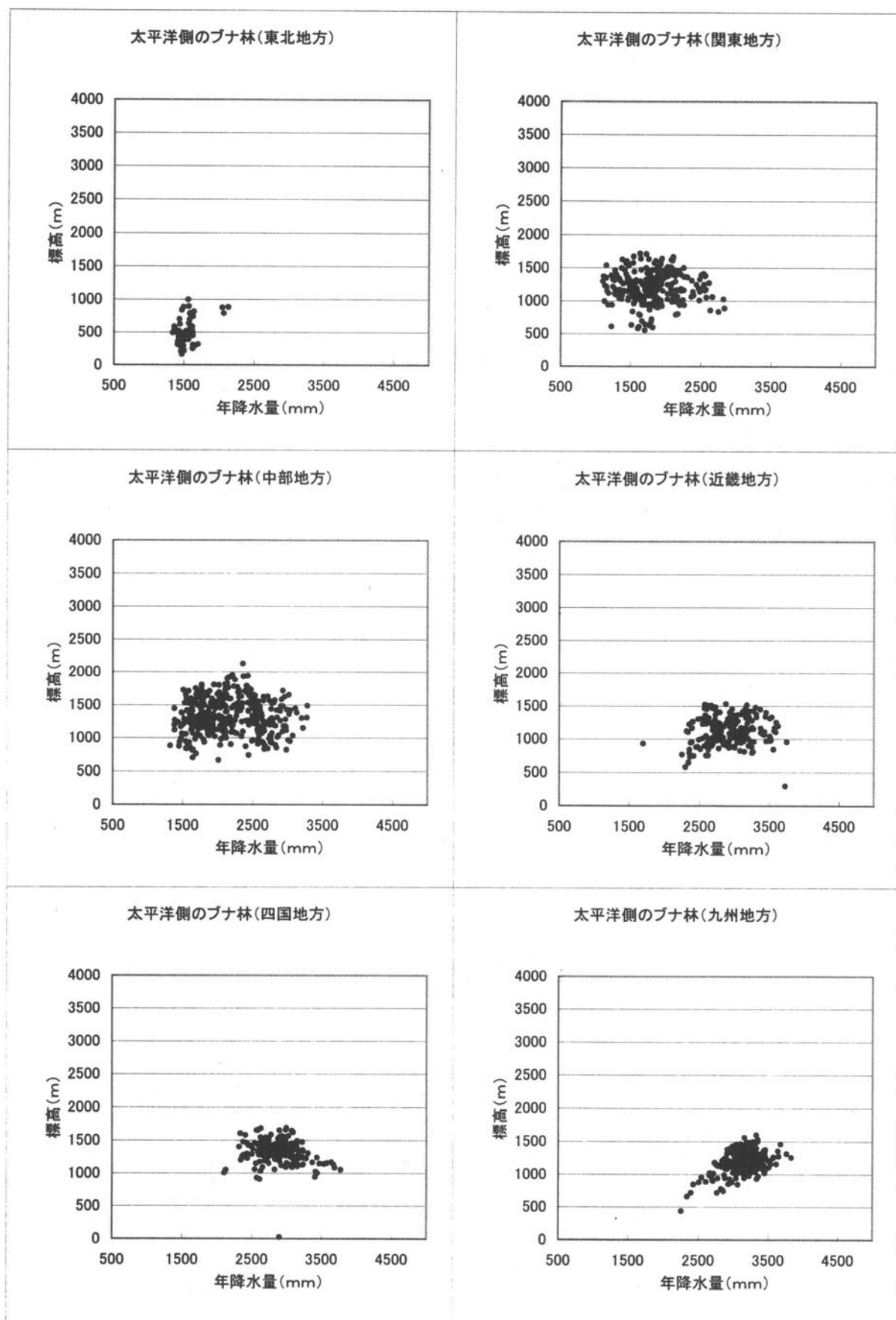
図Ⅱ.5.17 太平洋側ブナ林（自然植生）と環境要因（気温、降水量）との関係



図Ⅱ.5.18 太平洋側ブナ林（自然植生）と環境要因（気温、最深積雪深）との関係



図Ⅱ.5.19 太平洋側ブナ林（自然植生）と環境要因（気温、標高）との関係



図Ⅱ.5.20 太平洋側ブナ林（自然植生）と環境要因（降水量、標高）との関係